

[成果情報名]ラベンダー「城南1号」の植え替えによる9月の発蕾・開花枝数増加効果

[要約]ラベンダーのオリジナル品種「城南1号」の鉢物栽培では、5～6月開花後に枝の切り戻し、植え替えを行うことによって9月の鉢当たり発蕾・開花枝数が増加する。

[キーワード]ラベンダー、植え替え、切り戻し、開花

[担当]農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[連絡先]（代表）0957-26-3330、（直通）0957-26-4319

[区分]花き

[分類]指導

[背景・ねらい]

県内で育成されたラベンダーのオリジナル品種「城南1号」は、地床に植えると通常5月下旬から6月上旬に開花盛期となりその後も9月頃まで開花が継続する。しかしながら、鉢物栽培では5月下旬から6月上旬の開花盛期後、7月以降に開花しない場合が多い。

需要期である9月の「敬老の日」向けに鉢物として出荷するために、9月上旬の発蕾・開花枝数を増加させるための栽培技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. ラベンダーのオリジナル品種「城南1号」の鉢物栽培では5月下旬から6月上旬に開花盛期になるが、開花後の6月上旬に枝の切り戻しを行い、現在の鉢から1号（直径約3cm）以上大きい鉢に植え替えることにより、9月上旬の発蕾・開花枝数が増加する（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 枝の切り戻しは、株高7～10cm程度で行う。
2. 枝の切り戻しは、遅くとも6月下旬までに行う。

[具体的データ]

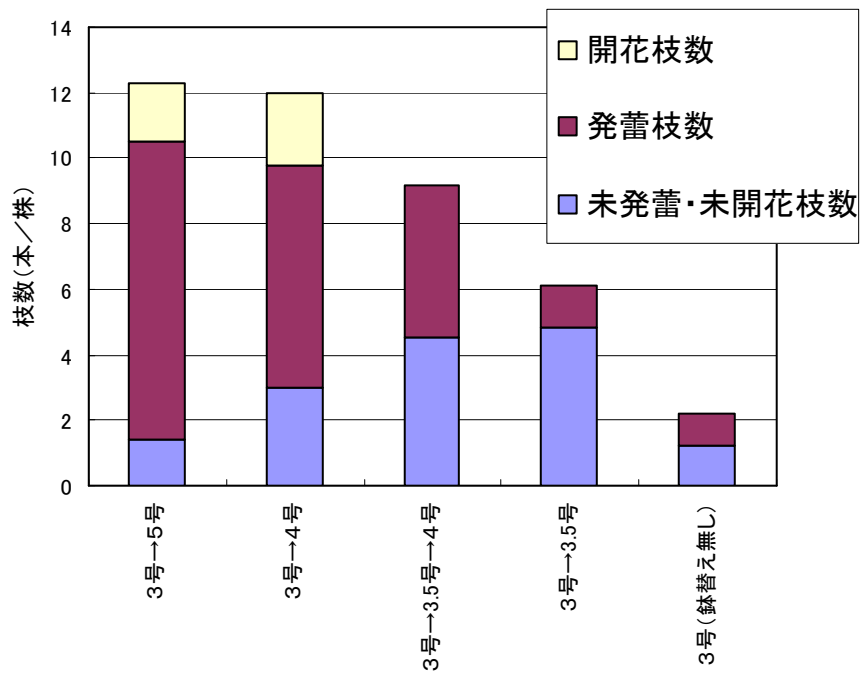


図1 ラベンダー「城南1号」の植え替えがその後の発蕾・開花に及ぼす影響 (9月3日調査)

耕種・試験処理概要：2007年9月1日に挿し芽、2007年10月1日に3号ポリポットに植え替えし、無加温ビニールハウス内で管理した。5月下旬に開花後、6月6日に枝を切り戻し、6月17日に5号鉢、4号鉢、3.5号鉢及び8月17日に3.5号から4号鉢に植え替えを行った。

[その他]

研究課題名：新規導入花きの技術開発

予算区分：県単

研究期間：2006～2008年度

研究担当者：諸岡淳司